

総説

ガイドライン批判（5）

認知症疾患診療ガイドライン 2026

薬剤治療偏重、せん妄誘発薬剤を軽視

薬のチェック編集委員会

Web資料B

薬のチェック編集委員会
2026-9-14

表1：キットウッドが唱えた「悪性の対人心理」

- | | |
|----------------|---------|
| ・だます | ・もの扱いする |
| ・できることをさせない | ・無視する |
| ・子ども扱いする | ・無理強いする |
| ・脅かす | ・放っておく |
| ・レッテルを貼る | ・非難する |
| ・汚名を着せる | ・中断する |
| ・急がせる | ・からかう |
| ・本人の思いや希望を認めない | ・軽蔑する |
| ・仲間外れにする | |

上田諭「治さなくてよい認知症」より引用

表2：ユマニチュード介護手法（介護哲学）の原則

- ①見下ろすのではなく、視線の高さを合わせて正面から見つめる
- ②介護をするときはこちよく感じる言葉を穏やかな声で語りかけ続ける
- ③動かすときは、手首をつかむようなことをせず、下から支えるように触る
- ④筋力、骨、呼吸機能を鍛えるために立たせることに努める

上田諭「治さなくてよい認知症」より引用

表3：認知症者に対して、やってはいけないこと、と適切な接し方

や っ て は い け な い こ と	適 切 な 接 し 方
①いきなり話しかける、後ろや横から話しかける、早口で話しかける、いくつかの質問を同時にする	・思考の妨げにならないことを確かめてから話す。 ・同じ目の高さで目を見ながら話をする。 ・ゆっくりと、理解できる速度で話をする。 (失礼にならないければ、握手や肩に触れながら) ・答えやすい質問に（一度に一つのことしか聞かない）。 ・一つの質問の答えを待って次の質問をする。
②叱りつける、怒鳴る、命令する、強制する、急がせる、行動を制止・制限する、非難する、脅かす（怖がらせる）、レッテルを貼る	・できないことを責めない。 ・できたことを褒める。 ・笑顔で、気持ちよくなることを増やす。 ・なるべくポジティブな会話を増やす。 ・失敗しないように、支援する。 ・本人の希望やペース、習慣などを大切にする。
③動かすときに、手首をつかんで引っ張る、足をつかんで引っ張るなど、本人が苦痛を感じるやり方をする	・下から支えるように触る。 ・恐怖を感じないように常に配慮する。
④不安・興奮・怒り・いら立ち、問題行動（実は生活上の障がい）などに際して、理由を聞かず「落ち着きなさい」「そんなことしないで」とだけ言う	・理由が明らかな場合にはそれなりの対処を。 ・不明の場合は「何か嫌なことがあったのですか？」と、理由を聞いてから対処する。
⑤本人の意図を誤解して接していた場合でも、介護者が、そのことを謝らない	・本人の行動に理由があって行っていたことを理解せずに接していたことに気づけば、素直に謝る。
⑥役割を取り上げる。何もさせない、無視する、仲間外れにする、放っておく	・役割を分担してもらう。 ・人のためになっていることへの感謝の気持ちを伝える。
⑦子ども扱いする（〇〇ちゃんと呼ぶなど）、もの扱いする、からかう、軽蔑する	・プライドを傷つけない。長年、生活してきた年長者としての尊厳を保つことができるように呼び、接する。
⑧会話をしないで、黙々と介護や診療をする	・介護中も、こころよく感じる言葉を穏やかな声で語りかけ続ける。 ・自分史（若い頃の楽しかったことなど）を語ってもらう。
⑨危ないからと、立たせようとしない、外出させない	・筋力、骨、呼吸機能を鍛えるために立つことを促すようにする。
⑩いつもの違いを無視して、いつものスケジュールをこなそうとする。薬剤による害反応（副作用症状）の兆候があるのに、処方されている薬を処方通りに飲ませようとするなど	・いつもと違う様子が見られれば、その原因を探る努力をする。 ・例えば、処方されている薬剤が原因かもしれないのでチェックする。認知症に有効な薬剤はないので、中止して様子を見る。